
三千世界の旅人 途中下車もあるよ

HANMO

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

三千世界の旅人 途中下車もあるよ

【Nコード】

N2422BA

【作者名】

HANMO

【あらすじ】

これは少し未来の話。最新の技術の粋をもって作られたVRMMORPG『ファンタジー・ミッド・エース三千世界物語』プレオープンに当選したプレイヤーたちは、そのオープニングセレモニーの最中に突如として意識が断絶する。目を覚ました彼らはゲーム内で使用するはずだったプレイヤーキャラクターへととなっており、そのログには『ログアウトできません』の文字が……。人々が混乱するそんな中、どこかの世界のどこかの町にとある男が一人叫び声を上げた。「ついてね〜！でも、テンプレk t k r!」これは、多くの人々が帰還しようと奮闘する

中、マイペースに世界を渡り行く一人の男の物語。 三千世界の旅人
よ、最果ての地にて我は待つ。

0：三千世界への誘い（前書き）

最近の流行に感化され筆を執りました。見切り発車感が否めない
ので、御目汚しになるかと思いますが生暖かい目で見てあげてくだ
さい。暇つぶしの種になれば御の字です。物書き初心者の作者の駄
文ですがよろしく願います。^^；

0：三千世界への誘い

『ログアウトできません。』

何度見直しても、無機質で簡素な文字で表示されたままだった。何が起こったのかと混乱する自分と、どこか冷めた風にテンプレ乙と苦笑する自分がいる。

嗚呼、つまり今この身に何が起っているのかといえば簡単なことだ。

『ログアウトできません。』

この一言に尽きる。

西暦も2000年を超えて結構たつと技術もそれなりに進むもので、過去において想像の産物であったものが現実に生活の中でちらほら見受けられるようになってきていた。

電車はリニアに。

電話は空中に相手がホログラムで映り会話できるように。

宇宙旅行もいまだに高額だが、一般庶民でも手が出ないことは無くなり。

VR世界でショッピングを楽しむこともできる。

そういった技術の革新は、様々な分野で応用され広がっていった。

娯楽の分野でもそれは多分にもれず、VR技術はゲーム業界において飛躍的な進化を促していた。

過去ゲーム機といえば、据え置きでTVなどの映像機器に接続するか、個人携帯できる小型のものであった。しかし、VR技術が進むことでゲームはさらにその先へと進み、仮想世界の中に入り自分の体を動かす感覚で動かすことができるようになっていった。

無論、昔ながらのゲーム機も最新技術が用いられたものが数多く存在する。どちらかといえばそちらのほうがいまだ主流だ。VR技術を用いたゲームは基本的にR15指定以上であるものが多い。15歳以下の場合、脳の発育不足からもろもろの負担負担がかかることと考慮して安全面が心配されているからである。実際のところはそこまで危険はないと実証されているのだが、PTAやら教育委員会などからのクレームや疑問の訴えの嵐が殺到したことがあった話は万人が知ることであった。

当初、大手メーカーがゴルフやボウリングなどといったスポーツ関連のゲームをメインに発売していた。そういったものが、一番VR技術と愛称が良かったこともあったが、既存のゲームにおいてVR技術と結びつける利点があるものが少なかったということもあった。

そんな中、とある有名MMORPGを運営する会社がVR技術の導入を大々的に発表するという事が起こる。その会社は、これまでのMMORPGのノウハウとVR技術の新たな可能性を作り上げることを目標に、莫大な資金と年月を投じついに最新のVRMMORPG

Gを作り上げた。

その名は『アンリミテッド・ストーリー三千世界物語』。

数多の世界が連なるように存在する多元世界を舞台とした、SF & ファンタジー MMORPG である。

クローズド には各国から億を越える応募があったとも言われ、まさに全世界規模で注目されていた。各種メディアにも連日取り上げられ、TVを視聴している人ならば日に何度もそのCMを見ることになっていたはずだ。

そしてついに訪れるプレオープン。

この1週間後にオープン、さらに4週間後に正式サービスが開始される予定であった。

クローズド の際の応募のようにあまりにも多く、それ以上の口グインが予想されていたため、プレオープン を行い人数も3千万人という限られた枠が用意されたのも仕方が無い事だと言えよう。

その3千万人のうちの1枠に滑り込めた俺は、その信じがたい幸運に変な奇声を上げてわけも分からぬ踊りを踊ってしまったほどだった。その現場を母親に遠い目で見られていたのは、忘れることにした。しかし、それほどにこの1枠は狭き門であったのだ。奇行に走ってしまったのが俺一人だけということはないと思う。うん、絶対に他にもいるはずだ。

公式HPやクローズド の参加者のレビューや解析記事などを読み漁り、今か今かとその日を待ち続けてついにそのときはやってき

た。

忘れもしない、それは夏季休暇に入って間もない8月の初日。

午後0時。

VRにダイブする、眩暈のような感覚と酩酊感。

数瞬後目を開ければそこは光差す神殿であった。

正確にはその前にある広大な広場。

そこには今回のオープン に当選した、ついでにプレイヤーたちがひしめき合っていた。

ここには日本からログインしたプレイヤーの4分の1ほどが集まっているそうだ。

公式HPの発表でまずはオープニングセレモニーとともに簡易チートリアルやくじ引き大会などの各種イベントを行い、その後事前に各自が設定した自らの分身であるキャラクターへと流れになっっているらしい。

早くしろ、という声もちらほら聞こえるがここでしか手に入らないアイテムも多数あるということ、おとなしくしているものが大半であった。

唐突に、今まで快晴で青一色だった空が暗転する。

そして、数多の光の花が擬似的な夜空に咲いた。

「みなさま、長らくお待たせいたしました！ 最新の技術の粋を
結集し、全世界が待ち望んだVRMMORPG『アンリミテッド・ストーリー三千世界物語（以
降US）』のプレオープン 開始を記念した、オープニングセレモ
ニーの開幕です！」

多くの者が司会者の写る近場のモニターを見ている中、思わず見
とれていた夜空に一瞬のノイズが走る。

「それでは、まず初めにこの『U アンリミテッド・ストーリーS』を作り上げた……。」

思わず目をこすり再び夜空を凝視するが、そこには先ほどと変わ
らない夜空と大輪の花火。

周りを見回すが、誰もが進行していくセレモニーに夢中であった。
首をひねる。

きつと、何かの見間違いだろう。

これだけ人がいるのだから、何か知らの負荷がかかったのかわし
れない。

それ以上深く考えることをやめて、周りの人々と同じように意識
を今なお長々と開発秘話を熱く語る社長の方へと向ける。

セレモニーはつつがなく進行していく。

各社方面からの祝辞。

簡単なメニュー操作や、この後のゲーム開始に際する説明。

立体映像を用いて作られた、この世界の物語。歴史と伝説

ここまで来ると、参加者の盛り上がりもかなりのもので、お祭り騒ぎである。

そして、オープン 限定のイベントであるくじ引き大会へと突入するともはや耳が痛くなるほどの歓声が上がった。

くじ引きは一人につき一回、目の前に現れるおみくじアイコンをタッチし開封するだけの簡単な作業であった。

そこかしこから、歓喜と落胆の声が聞こえてくる。

このくじ引きは公式HPの告知によると、消費系アイテムセット（参加賞）・ゲーム内通貨（金額はランダム）・装備品1点（ここでしか手に入らないものもあるという）の3つが手に入るというもので、何が手に入るかはおみくじの名が示すとおり運次第であるらしい。

多分にもれず俺も眼前に表示された『おみくじ・オープン 記念』を開封しますがよろしいでしょうか？ OK/NO』の、もちろんOKを選択し触れる。

ポップな感じのシステム音とともに、手に入ったものの一覧が表示される。

ちなみに、現実世界において俺はおみくじを毎年元旦に近所の神社で引いているがその結果が散々なのは悲しい事実なわけで、はっ

は？

おk、落ち着こう、クールだ、クールに行こうぜ、俺。もしかしたら、また見間違えたのかもしれない。

目を閉じて、ゆっくり息を、吸って、吐いて。

それを3回繰り返し、目をゆっくり開けてログを確認。

『新しいアイテムを入手しました！

《NEW!》オープン 参加記念アイテムセット（内容：HP回復薬？×100、MP回復薬？×50、ST回復薬？×50、万能薬？×10、騎士の護符？×10、術師の護符？×10、狩人の護符？×10、ラッキージュエル×5、吸魂の書？×10、環^{リザ}魂の書×5、^{アナライズ}解魂の書×5、マジカルキー・銅×10、魔除けの聖水×5、おみくじ・^-^v×5）

《NEW!》500000000000J

《NEW!》未解析：長い木の棒

『

おーまいごつど、変わってね。

あ、もしかしてこのゲームの通貨価値ってこのくらいが普通なのかもしれない……

「くそ！ 500Jぽつちかよ！」

「へへっ、オレ7000Jも入ってたぜ！」

「HPPOT一番安いのも1個200Jするって言うからかなり得してるよね、このアイテムセット。」

「これで予定してた装備一式何とか揃いそうやー！」

「誰か、手持ちの術師護符出せる方いませんか？ 1枚500Jほどで買い取り希望です！」

「ちょwwwレザースカートってwww男のモレにどうしろとwww」

「ワロタwww」

「女装乙www」

「このあと有志50名ほどでじゃんけん大会やりまーす！ 参加費は1000Jで1位20000J、2位10000J、3位5000J、参加賞はHPPOT1個です！ 場所は……」

「……そんなわけないですよー！」

俺はそつとログを閉じると、ため息を一つつく。

落ちつかねエ……。

本来ならば飛び上がったって喜ぶところなのだろうが、やけに冷静な

自分がいる。

何だこのもやもやした気分は？

嫌な……、嫌な予感がする……。

ザザッ……。

どこかでまたノイズが走った気がした。

嗚呼、兎にも角にも現実世界であろうとVRの世界であろうと俺はついていないのだろう。

ザザッ……ザザッザザザザー……！

突然の異変に周囲のざわめきが驚愕のものへと変わった。

目の前には灰色の砂嵐。

ノイズの不快な音が耳朵を打つ。

そしてテレビの電源を落とした直後のように、ぶっつりと俺の意識は落ちたのだった……。

~~~~

軽やかな音色とともに誰のものとも知れないウィンドウにログが流れる。

『《NEW!》クエストが更新されました。

全てのプレイヤーに新たにストーリークエスト【旅立ちの朝】が追加されました。

全てのプレイヤーはログアウト不可になりました。

全てのプレイヤーの感覚抑制プログラムは一部解除されました。

全てのプレイヤーはそれぞれのPCの元への転送・憑依が完了されました。

全てのプレイヤーの意識断絶を解除します。

それでは良い旅を。

良い冒険を。

良い生を。

三千世界の加護を……………。

『



## 0：三千世界への誘い（後書き）

主人公はついてないひとです。の〇太（通常時・映画補正無し）  
くらいついてない人生を送ってきました。〇条さんはついていない  
というか、フラグホイホイでそれに係わった人を見捨てることがで  
きずに突っ込んでいく熱血漢な人と解釈しております。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2422ba/>

---

三千世界の旅人 途中下車もあるよ

2012年1月6日02時49分発行